

済生 さくら 様  
平成 10 年 10 月 10 日  
12345678

患者氏名：済生 さくら 様  
患者番号：12345678

## 無痛分娩時の麻酔（硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔）に関する説明文書

この文書は、済生 さくら 様への無痛分娩時の麻酔について、その目的、内容、起こりうる合併症などを説明するものです。説明を受けられた後、不明な点がありましたら何でもおたずねください。

**【無痛分娩の目的・対象】** 無痛分娩とは硬膜外麻酔もしくは脊髄くも膜下麻酔を用いて、分娩時の痛みを通常の半分以下に緩和することです。無痛分娩により痛みの少ない出産をすることで、体力の消耗を軽減し分娩後のスムーズな回復を目指します。母体及び胎児に大きな問題がなければ無痛分娩が可能です。脊椎疾患、血液凝固障害、重症の糖尿病などがある場合は適応とならない場合があります。また母体及び胎児の安全性を保つため、夜間や緊急時は無痛分娩を行わない場合があります。無痛分娩進行中に帝王切開術に移行する場合、無痛分娩で用いる硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔に加え全身麻酔を用いることもあります。

**【硬膜外麻酔の目的・方法】** 脊髄の外側にある硬膜外腔というスペースに針を刺し、そこへ局所麻酔薬を注入し、分娩時の痛みを緩和します。ベッド上で横向きの体勢となり、皮膚を消毒し痛み止めの注射をした後、背中から硬膜外針を穿刺し脊髄の外側（硬膜外腔）まで進めます。硬膜外腔に達したら針の内腔を通して細いカテーテルを留置します。留置したカテーテルを用いて局所麻酔薬を投与することで脊髄神経を麻酔し、強い鎮痛効果を発揮します。カテーテルは非常に細いので仰向けで寝てもほとんど気になりません。分娩の進行具合や痛みの程度に応じて、カテーテルより局所麻酔薬や麻酔薬を投与します。局所麻酔薬注入後は筋力が一時的に弱くなる場合があります。

**【脊髄くも膜下麻酔の目的・方法】** 背中（腰）から細い針を穿刺し脊髄腔内に局所麻酔薬を投与することで脊髄神経を麻酔し、陣痛や産道の痛みを緩和します。ベッド上で横向きの体勢となり、皮膚を消毒し痛み止めの注射をした後、背中から脊髄くも膜下針を穿刺し脊髄腔内まで進めます。脊髄腔内に達したら局所麻酔薬を投与することで脊髄神経を麻酔し、強い鎮痛効果を発揮します。下半身に力が入りづらくなりますが、触られたり引っ張られたりする感覚は残ることがあります。脊髄くも膜下麻酔の効果は数時間持続します。

**【注意いただきたい事項等】** 抗凝固・抗血小板薬は一時的に中止する必要があります。

### 抗血小板薬、抗凝固薬の中止について

これらの薬を中止して手術（手技）を行うと、出血のリスクは低くなりますが、血栓の予防効果が失われ、脳梗塞、心筋梗塞、下肢静脈血栓、肺塞栓等の重篤な血栓症が起こる可能性があります。これらの薬を継続する出血のリスクと、薬を中止する血栓症発症のリスクの両者を考慮して中止するか継続するか判断することになりますが、完全に危険をなくすことはできません。

### その他

済生 さくら 様  
平成 10 年 10 月 10 日  
12345678

**【硬膜外麻酔と脊髄くも膜下麻酔の合併症】**

- ①頭痛 硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔の際の硬膜穿刺により発症します。(頻度：0.5%)  
症状が強い場合は硬膜外腔に血液を注入すること(ブラッドパッチ)があります。
- ②硬膜外血腫 硬膜外腔に出血が生じ、血腫が形成されることがあります。(頻度：<0.01%)  
抗凝固・抗血小板薬を使用している場合は発生頻度が高くなります。  
血腫による脊髄神経圧迫症状がある場合は緊急手術が必要となります。
- ③硬膜外膿瘍 硬膜外腔に感染をきたし、膿瘍が形成されることがあります。(頻度：<0.01%)  
糖尿病で血糖値が高い場合や全身性の感染症がある場合は発生頻度が高くなります。  
膿瘍による脊髄神経圧迫症状がある場合は緊急手術が必要となります。
- ④局所麻酔薬中毒 血中濃度が上がると意識障害・不整脈・心停止などが起こることがあります。
- ⑤カテーテル切断 手術をして摘出する必要が生じる場合があります。
- ⑥血圧低下 時に低血圧となり気分不快感などを生じることがあります。

**【何も治療を行わなかった場合に予想される経過】** 通常分娩を行う

**【他職種同席】** 不要

**【特記事項】**(※ 患者さんに特有の事柄を記載し、電子カルテ内に保存してください。)

**【セカンドオピニオン】** 現在のあなたの病状や治療方針について、他院の医師の意見を求めることができます。必要な書類をお渡ししますので、お申し出ください。

**【同意を撤回する場合】** いったん同意書を提出しても、治療が開始されるまでは、本治療を受けることをやめることができます。やめる場合にはその旨を下記まで連絡してください。

**【連絡先】** 本治療についての質問や治療を受けた後に緊急の事態が発生した場合には下記まで連絡してください。

東京都済生会中央病院 電話 03-3451-8211 (代)

説明日： 年 月 日

説明者：

病院側同席者 無 / 有 氏名 \_\_\_\_\_

済生 さくら 様  
平成10年10月10日  
12345678

## 無痛分娩の麻酔に関する同意書

東京都済生会中央病院 院長 殿

私は、上記無痛分娩の麻酔に関するの説明を受けました。また、文章に記載されていない詳細な内容についても口頭での説明を受け、不明な点は質問を行い目的、必要性、方法、合併症の可能性と危険性及び発生率（死亡率）、選択しうる他の治療法について理解しました。  
上記無痛分娩と付随する処置を受けることに同意します。

説明内容をよくお読みになって、わからないことがある場合には医師へ質問をしてください。その上で、治療を受けることに同意される場合、下記に自署で記名頂き、本書面（病院保管）を治療前に必ずご提出ください。

同意日： 年 月 日

患者氏名（自署）：

※親族や代理人の場合は、代理人氏名欄に自署してください。

代理人氏名（自署）：

（患者さんとのご関係： ）

東京都済生会中央病院 麻酔科

説明日： 年 月 日

説明者：

病院側同席者 無 / 有 氏名